

県育成温州ミカンのマルチ栽培における果実中の $\beta$ -クリプトキサンチン含量

福永悠介・宮田良二・藤田賢輔・磯部 暁・坂本 等<sup>1</sup>・満田 実<sup>2</sup>  
 (熊本県農業研究センター・<sup>1</sup> 芦北農業改良普及センター・<sup>2</sup> 熊本県農業大学校)

Yusuke Fukunaga, Ryoji Miyata, Kensuke Fujita, Akira Isobe, Hitoshi Sakamoto and Minoru Mitsuta :  
 $\beta$ -Cryptoxanthin Content in the Fruits on Multi-cultivation of Kumamoto Prefecture Breeding Satsuma Mandarin

近年、健康志向の高まりから、食品が持つ様々な機能が注目されるようになった。カンキツにおいても、数種の機能性成分が注目されているが、温州ミカンに多く含まれる $\beta$ -クリプトキサンチンは、その発ガン抑制活性の高さから特に注目を集めている。今回、熊本県で育成された温州ミカン3品種について、果実中の $\beta$ -クリプトキサンチン含量の分析を行った。

また、透湿性シートマルチ栽培による、果実中の $\beta$ -クリプトキサンチン含量の変化をみるため、シートマルチ栽培を行った同品種について、 $\beta$ -クリプトキサンチン含量を測定した。

## 1. 材料および方法

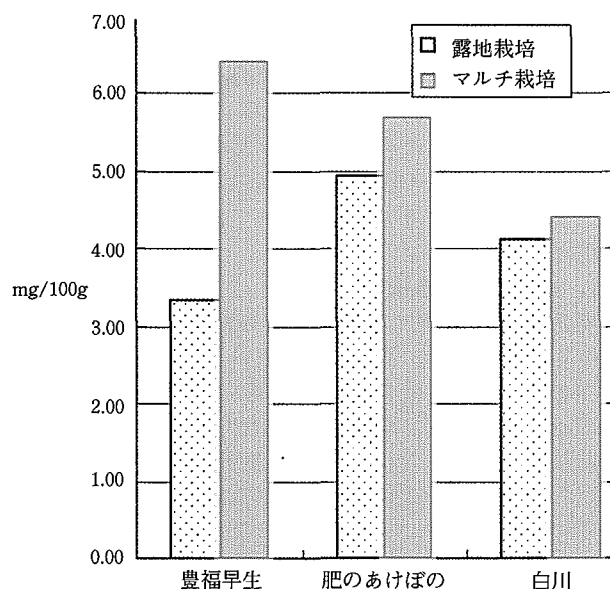
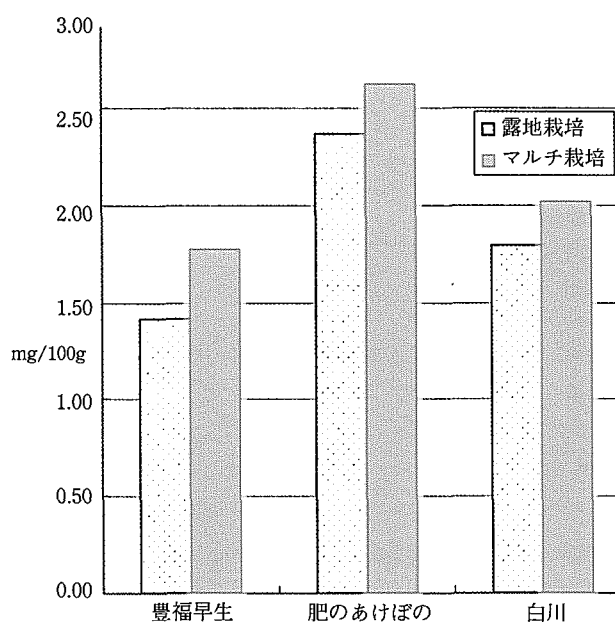
供試品種：‘豊福早生’，‘肥のあけぼの’，‘白川’の露地栽培果実，およびマルチ栽培果実。

採取および分析時期：‘豊福早生’は10月上旬，‘肥のあけぼの’は10月中旬，‘白川’は12月上旬に採取し，そのつど分析を行った。

## 2. 結果および考察

分析の結果，‘豊福早生’，‘肥のあけぼの’，‘白川’の果肉には，それぞれ1.41mg，2.34mg，1.79mgの $\beta$ -クリプトキサンチンが含まれており，‘肥のあけぼの’において含量が特に高かった。果皮における $\beta$ -クリプトキサンチン含量は，それぞれ3.34mg，4.94mg，4.13mgで，果肉同様，‘肥のあけぼの’において含量が特に高かった。

マルチ栽培においては，いずれの品種でも $\beta$ -クリプトキサンチン含量が増加する傾向がみられた。

第2図 果皮中の $\beta$ -クリプトキサンチン含量第1図 果肉中の $\beta$ -クリプトキサンチン含量